学 長 式 辞

商学部、大学院の新入生のみなさん、みなさんは今日から、小樽商科大学の構成員になられました。

心より歓迎し、お祝いを申し上げます。本日のこの式にご臨席を賜りましたご家族のみなさま、ご来賓の方々にも篤く御礼申し上げます。

ところで、私はこの四月から学長に就任いたしました。みなさんと同じ新人です。どうぞよろしくお願いします。さて、これから、大学生・大学院学生になるわけですが、大学・大学院では何をするのでしょうか。大学で学ぶ・学問をするとは、どういうことなのでしょうか。

みなさんは福沢諭吉という人をご存じでしょうか。幕末・明治にかけてに活躍した思想家・教育者ですね。慶應義塾大学を創立した人と言えばおわかりかもしれません。その福沢諭吉が明治の初年に書いた本のなかに『学問のすすめ』というものがありますが、未だに読み継がれています。このなかで福沢は、学問とは単なる知識の集まり・体系だけではなくて、活動である、「精神の働き」「心身の働き」であると言っています。つまり、学問の本質は、出来上がった知識を単に学ぶことだけでなく、新しい知識を作り出していく精神と身体の活動にあるというわけです。

どういうことかというと、知識や理論を学習することはもちろん大切なことです。新しい知識を得て、ものを見る目が変わってくる、世界が広がる喜びがあります。しかし、おそらく福沢が強調したいのは、「学問する」ことは、それだけにはとどまらず、獲得した知識を使って、未知のもの、不確実なものへの挑戦でも なければならないということではないでしょうか。

みなさんご存じのように、今日の社会は、変化が激しく不安定・流動的です。かつてのような高度経済成長はもはや望めません。他方で、高齢化と少子化が進み、生産人口の減少、不安定な雇用、広がる格差、そして東日本大震災からの復興という数多くの課題を抱えています。

さらにいえば、今日の社会は、地域や国が、相互に強く依存しあっています。いわゆるグローバリズムが支配する社会です。物や人が自由に行き来する、一国の出来事が瞬時に他国・他の地域の政治や経済に影響を与える社会です。そのような社会でわれわれは生きなければならない。そのためには、異なった文化・考え方に対する理解、他者とコミュニケートする態度、そのなかで自分自身の置かれている位置、アイデンティティーを見いだすことのできることが必要です。

このような現代の社会が抱える様々な問題・課題を解決しようとしても、答え・解は一つではありません。

そのためには、既存の知識・体系を駆使して、未知なるもへの解決を探らなければならなりません。私は、百年以上前のこの福沢のことばが、現代においても依然として通用していると思います。みなさんが、将来大学を卒業して、社会で働く際に、この精神の働きを体験することが大学で学ぶことに相通ずるのです。

今から百年前、本学の前身である小樽高等商業学校の初代校長渡邊龍聖は、入学式のなかで、学生に対して「これからは諸君を紳士として遇する」と言いました。これは、今でも小樽商科大学の教育方針です。みなさんは、自立した個人として行動し、学ぶことが求められます。みなさんがこれから学ぶ小樽商科大学は、長い実学教育、語学教育の伝統をもっています。実学教育では、みずからの専門に加えて幅広い分野の知識をもち、それを用いて現実の問題に取り組む能　力・意欲を育てることを目指しています。また、語学教育では、言語コミュニケーションを重視した実践的な語学教育を行っています。そして、現在は、ICT　機器を備えた教室を整備し、アクティブ・ラーニングなど先端的な教育方法の開発を行っているところです。

昨年度、小樽商科大学は、教育・研究・社会貢献の面で北海道の拠点となる大学に選ばれました。現在、そのための活動を始めたところです。とくに、教育においては、グローバルな視点で北海道のことを考え、発信できる人材の育成のためのプログラムを検討しているところです。みなさんには、この私たちの試みに是非参加して頂きたいと思います。

もう一つ、みなさんにこの場でお伝えすることがあります。二年前の五月七日、本学のグラウンドで運動クラブの学生が飲酒で死亡する事故が起こりました。こ　の学生は、入学したばかりの一年生でした。私たちは、亡くなった方に衷心より哀悼の念を捧げるとともに、二度とこのようなことが起こらないように生命・安全を守ることを誓いました。未成年の飲酒は法律で禁止されています。また、飲酒は、場合によっては大変危険をともなう行為です。みなさん特に大学一年生の　諸君においては、大学の指導を守り、健康と安全に注意して大学生活を送ってもらいたいと思います。

私は、これまで行ってきたように、小さな大学の特徴を生かし、教員、職員そして学生が生き生きとした交流を通じて、みなさんとともに、新しい小樽商科大学を作っていきたいと考えています。

アメリカの第三十五代大統領ジョン・F・ケネディは、大統領就任演説のなかで、国民に対し「国があなたのために何ができるかを問うのではなく、あなたが国のために何ができるかを問う」ことを求めました。

私も、最後に、このケネディにならって、みなさんにこうお願いしたい。「みなさんが、小樽商科大学から何を学ぶかということだけでなく、小樽商科大学のために何ができるか」ということも考えながらこれからの大学・大学院生活を送ってもらいたい。

平成二六年四月三日

国立大学法人小樽商科大学長　和　田　健　夫